

大阪市立弘済中学校分校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】	
全市共通目標（小・中学校）	
○令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。	(参考：H30 0件⇒R1 0件⇒R2 0件) (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
○令和3年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。	(参考：H30 95.5%⇒R1 95.8%⇒R2 84.6%) (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
○令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。	(参考：H30 0件⇒R1 0件⇒R2 0件) (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
○令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。	(参考：H30 0件⇒R1 0件⇒R2 0件) (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
学校園の年度目標	
○独自のアンケート調査を実施し、以下の項目について「当てはまる。または、どちらかといえば、当てはまる。」と回答する生徒の割合を70%以上にする。 ・「気持ちの良いあいさつができるていますか」（マナーへの意識） R2 86.5% ・「チャイムとともに行動ができるていますか」（規範意識） R2 84.6% ・「相手の気持ちを考えた言動ができるていますか」（思いやりの心） R2 80.8% ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」（奉仕の心） R2 88.5% ・「感謝の気持ちをありがとうの言葉で伝えられていますか」（感謝の心） R2 88.5%	(施策2 道徳心・社会性の育成)
○分校生徒の課題解決に向け、道徳教育推進教師が中心となり、教科書を活用した道徳授業を年間22～35時間以上実施し、校内教員研修および研究授業を年間3回以上実施する。	(施策2 道徳心・社会性の育成)
○「生きる力」を育むため、インクルーシブ教育、平和教育、キャリア教育など、3つのテーマに沿った「人権教育」の授業を年間6回以上実施する。	(施策2 道徳心・社会性の育成)
○これまで約90%近くあった高校中退率を50%台まで減少させるため、「つながる力向上プログラム」、「認知機能トレーニング」を継続実施し、生徒が自分の特性を深く知り、自らの弱点に気づき、克服する機会を設けることで、卒業後の社会生活への適応ができるようにする。	(施策2 道徳心・社会性の育成)

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】 (道徳担当) 学力向上PJチームが年間計画や教材の選定を行い、教科書を活用した道徳授業を、担任を中心として学年団において輪番制で実施する。	B
指標 年間22～35時間以上、教科書を使用した道徳教育の授業を実施する。	
取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】 (道徳担当) 教科書を活用した道徳授業を深化充実させるため、外部講師を招聘し、校内教員研修を実施して、教員の指導力の向上を図る。	B
指標 校内教員研修を年間3回以上実施し、道徳教育の指導力向上を図る。	
取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】 (人権教育主担) 「豊かな心」を育むため、インクルーシブ教育、平和教育、多文化共生教育など、3つのテーマに沿った「人権教育」の授業を計画する。	C
指標 人権教育を深化充実させるため、外部講師を招いた授業を年間6回以上実施する。	
取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】 (キャリアPJ) 「つながる力向上プログラム」を取り入れることで、生徒が自らの特性を深く知り、特に弱点を克服する機会を設けることで、卒業後によりよい社会生活への適応ができるようとする。	B
指標 「つながる力向上プログラム」に加え外部講師を招いての夢授業、職業講話をそれぞれ年2回以上実施し、将来の人生設計を考えるきっかけとなる機会づくりにつなげる。目的意識をもって進学することで、これまでの高校中退率が卒業生全体で約70%近くあったが、卒業後3年間の中退率を50%台にまで減少させる。 キャリア教育の取り組み全体を通して、年度末の独自アンケートにおいて、「生徒が将来の人生プランに希望をもつことができた」との肯定的な回答の割合を70%以上にする。	
取組内容⑤【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 (生活指導部) 「いじめ対策委員会」を中心に、校内の児童生徒の状況を全教員や支援の職員が共通理解し、早期発見と対応にあたる。	B
指標 朝と昼の2回、生徒の授業中や校内での様子や態度について情報交換し、問題行動の早期発見と早期解決に努める。また、週末の放課後、一週間の行動を「振り返りシート」に書かせ、いじめ等の問題行動の未然防止に努める。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①教科書を活用した道徳の授業を、現段階で13回実施できている。 ②外部講師による道徳研修を1回実施することができた。校内の新任道徳研修も1回実施できている。また、校内での教頭先生による道徳研修も実施することができた。 ③外部講師を招いた授業を行えていない。 ④1学期に夢授業、高校出前授業を行った。2学期に職業講話、出前職業体験、夢授業を企画しており、子どもたちのキャリア教育への意欲の向上が期待できる。 ⑤朝、昼のミーティングでの情報交換で問題行動の早期発見、早期解決につなげができている。また、週末の振り返りシートで、いじめ等の問題行動の未然防止につなげることができている。	

今後の改善点

- ①今後、学校行事等の関係で、道徳の授業を総合的な学習にしたことがあったため、なるべく道徳の授業数が減らないようにする。
- ②外部講師の先生による道徳研修への参加の声掛けを徹底し、参加者をより多くすることを目指す。
- ③今後は学校内外問わず、様々な側面から人権教育を行えるよう計画する。
- ④まずは、2学期の企画を成功させ、取り組みを振り返りたい。来年度以降、年間のキャリア教育の計画をさらに効果のあるものを企画できるようにしたい。
- ⑤ミーティングでの情報交換はできていたが、生徒対応が遅れてしまった事案があるので、生活指導部を中心として連携を密にして、タイムリーな生徒対応ができるようにする必要がある。

大阪市立弘済中学校分校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった	B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
全市共通目標（小・中学校）	
○令和3年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 (3年生 0.70 (1年) ⇒ 0.72 (2年) 2年生 0.74 (1年) ⇒ 0.69 (2年)) (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)	
○令和3年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より10ポイント減少させる。 (3年生 66.7 (1年) ⇒ 43.5 (2年) 2年生 60.0 (1年) ⇒ 53.8 (2年)) (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)	
○令和3年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント増加させる。 (3年生 0.0 (1年) ⇒ 17.4 (2年) 2年生 20.0 (1年) ⇒ 7.7 (2年)) (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)	
○令和3年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 (参考:H30 50.0% ⇒ R1 66.7% ⇒ R2 調査なし) (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)	
○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点において、前年度の全国平均と大阪市平均を上回るようにする。 (参考: 令和元年度 体力合計点 男子47.40 女子 49.00) (施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)	
学校園の年度目標	
○教員の資質・能力を高めるため、全ての教員に公開授業を年間2回以上実施する。また外部講師を招いて研究協議を伴う公開授業を3回以上実施し、教員全体の教科指導力の向上に努める。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)	
○令和3年度の全国学力・学習状況調査では、昨年度より正答率を増加させ全教科を平均した無回答率を15%以下にする。 (参考: 無回答率 H30 13.8% ⇒ R1 5.9% ⇒ R2 調査なし) (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)	
○学校独自アンケートを実施し、学習に対する「興味と関心」、「学習意欲」、「学習習慣」、「授業理解」等の項目において、肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上にする。 (参考:H30 73.5% ⇒ R1 72.7% ⇒ R2 71.5%) (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)	
○学校独自アンケートを実施し、運動・スポーツに対する「意欲」、「興味と関心」、「運動習慣」等の項目において、肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上にす	

<p>る。</p> <p>○生活実態に関する独自アンケートを実施し、基本的な生活習慣の項目において、肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上にする。</p>	<p>(参考:H30 95.6%⇒R1 95.6%⇒R2 96.1%)</p> <p>(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)</p> <p>(参考:H30 77.5%⇒R1 85.4%⇒R2 84.6%)</p> <p>(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)</p>
--	---

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(学力PJ) 学力向上PJが中心となって、子どもの学習理解度に応じた指導内容を作成するなど、組織による基礎学力の向上をめざした「わかる授業」を計画する。	A
指標 授業アンケートの「授業理解」の項目で、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。	B
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(学力PJ) 家庭用学習教材を5教科中心で準備し、各寮に提供する。特に、週末課題(宿題等)を配布し、学習習慣の定着を図る。	A
指標 授業アンケートの「学習習慣」の項目で、肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上にする。	B
取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習支援】(学力PJ) 生徒の学習面でのつまずきや悩みを早期に解決するため、学園の支援職員や寮長・寮母との情報交換を密にするなど、連携の強化を図る。	A
指標 学園職員に学校教育に関するアンケートを実施し、「学力」に関する項目の肯定的な回答を90%以上にする。	B
取組内容④【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(研究主担) 授業研究を伴う公開授業を実施し、その後の授業研究協議等により、教員の教科指導力の向上に努める。	B
指標 全ての教員の資質能力を高めるために、外部講師を招いた研究協議を伴う公開授業を3回以上実施する。	B
取組内容⑤【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(図書) 図書室の整備を行い、読書活動を充実させ、たくましく生きていくための幅広い知識の習得に努める。	B
指標 毎週学校図書室を開放し、学校図書館補助員とともに図書活動を充実させる。	B
取組内容⑥【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】(保健体育科) 自ら進んで運動に親しみ、自己の健康・体力に興味と関心が持てるよう、学校の授業や体育的行事のみならず学園のスポーツ行事も積極的に活用する。	B
指標 生活実態アンケートを実施し、運動・スポーツに対する「意欲」、「興味と関心」、「運動習慣」等の項目において、肯定的な回答をする生徒の割合を75%以上にする。	B

<p>取組内容⑦【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】(保健主事)</p> <p>毎日の健康観察より感染症の早期発見・早期対応に努める。また、「ほけんだより」や保健に関する掲示物などを活用し、感染症を初めとする病気やケガの防止について情報を発信し、啓発活動等を積極的に実施する。</p>	<p>B</p>
<p>指標 「保健だより」を毎月1回発行する。</p> <p>廊下や階段等にタイムリーに健康に関するポスター等を掲示する。</p> <p>年間1回以上、朝礼にて健康に関する講話を実施する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 基礎を固めるために数学と英語で習熟度別授業を行った。また新たな形式で、学習に不安を抱える生徒に対して補習を実施した。</p> <p>② 現在、目標の70%を5%ほど下回っている。祝日は決まった時間に学習時間が設けられているが、特に平日は学習する習慣が定着していない。</p> <p>③ ICTの活用、また習熟度別授業や個別指導を行うことで、生徒一人ひとりが興味関心を持って授業に取り組めるようになってきている。</p> <p>④ 授業者個別への研究協議指導を伴う公開研究授業を年間6回計画しているが、現時点で3回実施できている。</p> <p>⑤ 委員会による読書啓発活動や授業で調べ学習をおこなうことで、生徒の読書に対する興味関心を抱かせることができた。</p> <p>⑥ 運動会を学園と共に実施し、特にソーラン節に関しては個別指導を分担して行うなど協力して指導に当たった。</p> <p>⑦ 毎日の健康観察より体調の把握に努め、啓発活動を実施することで感染症の発生を防ぐことができている。また、ほけんだよりも予定通り発行することができている。</p>	
<p>今後の改善点</p>	
<p>① 引き続きT2を活用して、授業の中で生徒が学習に対する不安を少しでも拭えるよう配慮する。</p> <p>② 週末課題を毎週決まった教科から出題するようにし、また授業の内容に応じた課題を課す。</p> <p>③ 引き続き生徒の興味を引く授業を考案し、個々に合わせた指導計画を実施する。</p> <p>④ 新型コロナウィルスの影響で予定の変更等も生じたが、引き続き全教員が研究授業を実施し、各教科の指導力向上につながるよう計画をたてる。</p> <p>⑤ 図書の活動時間を増やすことで、生徒が自発的に読書活動をつうじて幅広い知識を習得</p>	

- できるようにする。
- ⑥運動や健康に対する意欲を向上させることができるように、保健の授業において日常生活とリンクして考えさせられるようにする。
- ⑦掲示物を充実させ、病気やケガの啓発に努める。

大阪市立弘済中学校分校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学園との連携】</p> <p>○ホームページを含む広報活動や学園・保護者・関係機関との連携を、組織（広報・連携推進プロジェクトチーム）により活性化させ、学園行事に対する「協力・連携」の項目や、生徒に対する「道徳教育」、「学力向上」、「運動・体力」の4項目の取り組みにおいて、肯定的な回答する学園職員の割合を70%以上にする。 (施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習支援)</p> <p>○「寮指導」（一定期間学校に登校せず、寮において内省することを主とする、阿武山学園独自の指導方法）の件数を、昨年度の指導件数より10%以上減少させる。 (施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習支援)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習支援】（広報PJ） 広報・連携推進プロジェクトチームが主体となり、組織による学園、保護者、関係機関との連携の強化を図り、学園行事にも積極的に参加する体制づくりに努める。</p> <p>指標 学園職員に学校教育に関するアンケートを実施し、学園行事に対する「協力」、「連携」等の項目において、肯定的な回答の割合を80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習支援】（生活指導部） 芸術鑑賞や運動会・創立祭など、学園との共催行事に積極的に関与し、教育と支援の両面から生徒の心身の成長を促進する。</p> <p>指標 学校教育に関するアンケートを学園職員に実施し、「德育」、「知育」、「体育」、「連携」の4項目において、肯定的な回答する割合を70%以上にする。</p>	C
<p>取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習支援】（生活指導部） 学校や学級内で発生した問題等については、担任、生活指導部、生徒指導主事を中心に迅速な対応と解決に努め、寮長や寮母等に学校での指導の経過を説明し、寮内での指導の一助になるよう努める。</p> <p>指標 「寮指導」件数を、昨年より10%程度減らす。</p>	C
<p>取組内容④【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習支援】（生活指導部） 学園の寮と連携し、基本的な生活習慣の確立に努める。生活実態に関するアンケート調査を実施し、肯定的な回答をする生徒の割合を昨年度より向上させる。</p> <p>指標 すべての項目で、肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上にする。</p>	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① ホームページの更新や学校新聞の発行、全市に向けた施設見学会などは計画通り実施し、分校の取り組みを発信している。また学校教育に関するアンケートでは、学園行事に対する「協力」、「連携」等の項目において、肯定的な回答の割合が 80%以上となった。
- ② 7月の学校教育に関するアンケートでは、德育 69.2%，知育 92.3%，体育 100%，連携 100% となった。
- ③ 昨年度と今年度の8月現在の寮指導件数を比べると、昨年度 16 件に対し、今年度 42 件となっており、昨年度の同時期の 2.6 倍以上の件数となっている。
- ④ 7月の生活実態アンケートでは、「寮の学習時間に、学校で習ったことを復習していますか？」の項目で 64.9% となった。

今後の改善点

- ① 広報活動を活性化させ、保護者、関係機関の積極的な行事の参加につなげる為、ホームページ、学校新聞の内容のさらなる充実を図る。
- ② 德育の数値が低いので、普段の日常生活から人権に対する意識を高めさせる必要がある。また、道徳教育の質の向上も必要である。
- ③ 今年度の寮指導件数を減らすために、生徒の問題行動に対して、迅速での的確な対応を行う必要がある。
- ④ 週末課題の充実を行い、基本的な生活習慣を確立していく必要がある。